

あしよろ・ハードサポート通信

3月は営農部 佐藤裕也氏を講師に搾乳勉強会を開催しました。基本的な搾乳作業のおさらいののち、青年部世代を中心に実施したアンケート報告、搾乳立会ビデオを上映し、幅広い世代の酪農家さんたちから質問や意見をいただけた活発な会になりました。

◆ 推奨されている一般的な搾乳手順

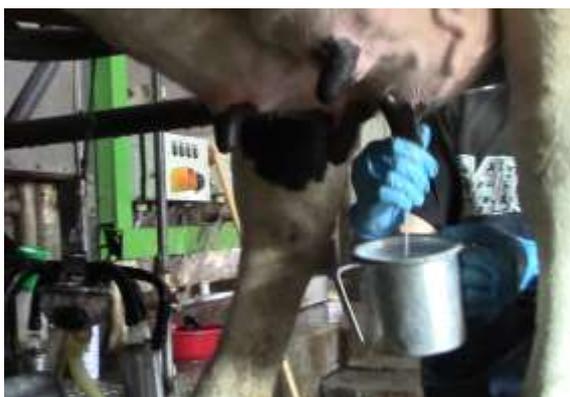


搾乳は「ミルクカーで乳を搾る」点ではどこも同じなのですが、意外と、酪農場・搾乳者ごとにやり方はそれぞれです。習慣的に身に染み込んだ作業が多く、酪農家さんがかなり思い切らないと変えられない分野でもあります。

ちょこちょこ乳房炎に悩まされているのなら、搾乳システム、環境衛生、栄養の見直しと併せて、搾乳方法にエラーがないか、搾乳者全員でチェックしてみてもいいかもしれません。

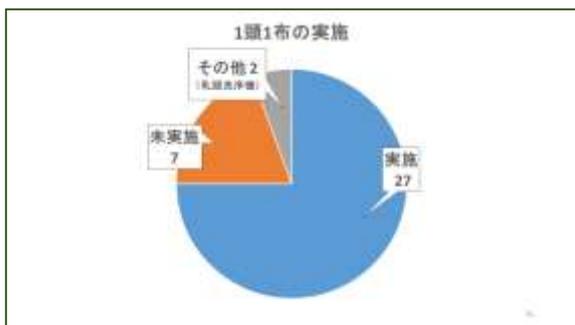
【近年、推奨されている一般的な搾乳手順】

- ① 搾乳手袋をする
- ② (③) 前搾り : 各乳頭 4~5 回ずつ
- ③ (②) プレディッピング : コンタクトタイム 30 秒
- ④ 乳頭清拭 : 1 頭 1 布、専用洗剤を使った脱水済みのタオル
- ⑤ ミルカー装着 : 乳頭に触れてから装着までの時間 90 秒がめやす
- ⑥ ミルカー離脱 : 装着時間約 5 分がめやす
: 離脱時の流量 700~1,000ml/分
- ⑦ ポストディッピング : ディッパーでドブ漬け



左は搾乳手袋を付け、プレディッピング後に前搾りしている様子です。前搾り乳は床に撒き散らさず、ストリップカップで受けています。カップには網が付いていて、ブツの有無を見つけやすくなっています。

前搾りは最も強い搾乳前刺激で、各乳頭 4~5 回ずつ行います。初産牛や泌乳後期牛、しぶい牛は、前搾り回数を増やして、搾乳前刺激をしっかりと与えます。



乳頭清拭は1頭1布が基本です。以前はペーパータオルも多かったのですが、ペーパーでは汚れが取れづらいことから近年は雑菌増殖を抑える専用洗剤で洗濯・脱水済のタオル使用が増えています。タオルから乳頭へ雑菌が移るリスクが減り、脱水済なので拭いた乳頭が乾きやすく、タオルを絞る手の負担も減ります。



乳頭をきれいに拭く作業も、乳牛への良い搾乳刺激です。ゴシゴシとこするのではなく、赤ちゃんの指をぬぐうような力加減で乳牛をリラックスさせることを意識しながら、乳頭口まで丁寧に汚れを拭き取ります（写真の牛は、搾乳前から乳房がとてもきれいでした）。

搾乳刺激をしっかりと受けた乳牛はオキシトシンの力でスムーズに射乳し、結果的にミルク装着時間（搾乳時間）が短くなる傾向です。清拭作業はあせらず落ち着いて、丁寧に進めていただけたらと思います。

搾乳立会では搾乳中の様子を撮影して、搾乳後に皆さんとそのビデオを見るのですが、「自分の搾乳イメージと実際の搾乳作業が違っていた」、と聞くことが結構あります。うちもチェックしてみたいな、というときは、お気軽にお声掛けください。（久富聡子）

.....

・2月23日に幕別町で全薬帯広営業所さん主催の子牛セミナーがあり、螺湾の木村晴美さんがたっぷり哺乳することで健康な子牛を育てていることや、新しい哺育舎の設備や工夫、子供たちが積極的にお手伝いしてくれる様子なども発表していただきました。朝から天気が悪かったのですが120名強の参加者が集まり、足寄町内からもたくさんの方たちが応援団で駆け付けてくださいました。

